

第8回日ASEAN防衛担当大臣会合 木原防衛相のカウンターパートたち

第8回日ASEAN(東南アジア諸国連合)防衛担当大臣会合が11月15日、インドネシア・ジャカルタで開催され、日本からは木原稔防衛大臣がオンラインで参加し、宮沢博行防衛副大臣が現地で開催された。木原大臣は会合へのビデオメッセージで、今年が日ASEAN友好協力50周年であることを踏まえ、日ASEANの防衛協力を新たな段階へと進めることを表明した。下記に木原大臣のカウンターパートとなる、同会合に参加したASEAN加盟各国の国防大臣を紹介する。

会合での協議概要

第8回日ASEAN防衛担当大臣会合は、11月15-16日に開かれた第17回ASEAN国防相会合(17th ADMM)と第10回拡大ASEAN国防相会合(10th ADMM-Plus)の関連特別会合として開催された。

*ASEANの「インド太平洋に関するASEANアウトルック(AOIP)」に示された原則が、開放性、透明性、ルールに基づく枠組みなど、「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」と本質的な原則を共有していることを確認。

*木原防衛相が日ASEAN防衛協力を新たな段階へと進めるための4つの柱として、①日ASEANで力や威圧によるいかなる一方的な現状変更も許容しない安全保障環境の創出、②日ASEAN防衛協力の継続と拡充、③日ASEAN防衛関係者の更なる友情と機会の追及、④ASEAN・日本・太平洋島嶼国の連携の支持、を提示。

*日ASEAN間での宇宙領域における法の支配などに関するセミナーの初開催。防衛省の装備品・技術移転や能力構築支援など既存のプロジェクトとの相乗効果により、ハードとソフトの両面で同志国の安全保障上の能力向上を支援。

*木原防衛相が、日本とASEANが共有しているビジョンを実現するためのこれら一連の努力を、「ジャスミン(JASMINE):防衛協力強化のための日ASEAN大臣イニシアティブ(L_Japan-AS_EAN_Ministerial_Initiative for Enhanced Defense Cooperation: JASMIN)」として、参加各国のカウンターパートに提示し、賛同を得た。

(上記は防衛省の令和5年11月15日付報道資料(「お知らせ」)より抜粋)

《インドネシア：2023年ASEAN議長国》

■国防相 Defense Minister



プラボウォ・スビヤント(退役陸軍中將) Lt. Gen.(Ret.) Prabowo Subianto

第8回日ASEAN防衛担当大臣会合(および17th ADMM、10th ADMM-Plus)の議長。会合の冒頭で、「日本はASEANにとって最も重要な国の一つだ」として、これまで日本がASEANに対して積極的に防衛協力を実施してきたことに謝意を表明した。

*ジョコウィ現政権の連立第3党「グリンドラ党」(国会78議席)の総裁。元陸軍戦略予備軍(Kostrad)司令官(退役中將)。故スハルト元大統領の元女婿。

*2024年2月に実施されるインドネシア大統領選挙に立候補する。タンデムを組む副大統領候補はジョコ・ウィドド(通称ジョコウィ)現大統領の長男、ギブラン・ラカブミン・ラカ(Gibran Rakabuming Raka)スラカルタ市長(36歳)。大統領候補3人に対する最新の世論調査(11月中旬)では、支持率39.7%でトップに立っており、政治情勢に大きな変化がなければ次期大統領に当選する可能性が高い。

*大統領選挙への出馬は2014年と2019年に続いて3回目となり、過去2回はいずれもジョコウィ候補(現大統領)に惜敗した。19年10月に成立した第2次ジョコウィ政権で大統領の強い求めに応じて現職(国防相)に就任(ジョコウィ氏の旧敵を政権に取り込む「サブライズ人事」)。

▼データ：【年齢】72歳(1951年10月17日生まれ)【生地】ジャカルタ【政党】グリンドラ党(Gerindra)：総裁【人種】ジャワ人【学歴】(英)アメリカンスクール卒、インドネシア国軍士官学校(Akabri)卒(総代)【経歴】陸軍中将：1983年陸軍特殊部隊(Kopassus)東ティモール派遣部隊隊長(88年)。94年Kopassus副司令官。95年同司令官。98年3月陸軍戦略予備軍

(Kostrad)司令官、同5月(スハルト政権崩壊に伴い)国軍参謀学校長、同8月「反政府活動家の殺害などを指揮した」罪に問われ、軍事法廷で軍籍剥奪(当時)。のちにヨルダン、ドイツ、タイ(バンコク)で「亡命」生活。2000年5月帰国、「ヌサンタラ・エネルギー(Nusantara Energy)」グループ創設。08年7月(ゴルカル党から正式離脱)Gerindraを創設し、諮問会議議長に就任。09年7月大統領選挙に(メガワティ候補とペア)の副大統領候補として立候補するが落選。14年7月大統領選挙に立候補するがジョコウィ候補に敗北、同9月Grendra総裁(一現職)。19年4月大統領選挙で現職のジョコウィ候補に敗北、同10月23日(第2次ジョコウィ政権)国防相(一現職)。23年10月25日次期大統領選挙(24年2月)への立候補届け出。

《ラオス：2024年ASEAN議長国》

■副首相兼国防相 Deputy Prime Minister & Minister of National Defence

チャンサモン・チャンニャラット大将 Gen. Chansamone Chanyalath



(任期中の退任などがない限り)2024年のASEAN国防相会合(ADMM)の議長を務めることになる。

*2016年1月の第10回ラオス人民革命党(LPRP)大会で初めて党政治局入り(当時は序列8位だったが現在は序列5位)。同4月の第8期第1回国会が承認した閣僚人事で副国防相から国防相へ昇格。21年3月の第9期第1回国会の閣僚人事で副首相(兼任)に昇格。史上3人目のラオス人民軍(LPAP)大将。

▼データ：【年齢】77歳(1946年生まれ)【生地】北部・ボンサリー県【政党】ラオス人民革命党(LPRP)：政治局員【人種】カム族【経歴】ラオス人民軍(LPAP)政治総局長、国防研究所長、副国防相を経て、2016年4月20日(第8期政府)国防相。21年3月22日(第9期政府)副首相兼国防相(一現職)。

《タイ》

■国防相 Minister of Defence

スティン・クランセーン Sutin Klungsang

今年9月に発足したセター連立政権で第63代の現職(国防相)に抜擢された。タイでは現役・退役軍人ではない首相が国防相を兼任するケース(5人)はあったが、シビリアンが専任の国防相に就くのは同(スティン)氏が初めて。与党第一党「タイ貢献(プアタイ)党(PT)」の副党首。通算5期目の下院議員(PT比例8位)。

▼データ：【年齢】62歳(1961年3月9日生まれ)【生地】(東北部)マハーサーラカム県チェンユーン郡【政党】タイ貢献党(PT)：副党首【学歴】(インド・ビハール州)マガダ大学学術博士(Ph.D.)【経歴】教育者・政治家：2001年3月総選挙で下院議員に初当選(その後、05年、07年、19年、23年総選挙で当選)。23年5月14日総選挙で下院議員(PT)に当選(通算5期目)、同9月1日(セター内閣)国防相(一現職)【家族】チャウィーワン(Chaweewan)夫人【詳細データ】⇒AMR(23/10/15)

《マレーシア》

■国防相 Minister of Defence

モハマド・ハサン Dato'Seri Mohamad Hasan

アンワル現政権を構成する政党連合「国民戦線(BN)」の中核政党「統一マレー国民組織(UMNO)」の副総裁(BN副議長を兼任)。ヌグリ・スンビラン州首席相を14年間務めたベテラン政治家だが、連邦下院議員は1期目(同

州レンバウ選挙区)。

▼データ：【年齢】67歳(1956年5月2日生まれ)【生地】(旧マラヤ連邦)ヌグリ・スンビラン州スレンパン【政党】国民戦線(BN)：副議長/統一マレー国民組織(UMNO)：副総裁【学歴】マラヤ大学(UM)卒(国際関係論)【経歴】銀行家・実業家：メイバンク(Malayan Banking Bhd)、バンク・オブ・ブンプトラ・ロンドンなどで要職を歴任。92年「コールドストレージ・マレーシア」CEO。94年(自動車・同部品販売)Cycle and Carriage Bintang Bhd社長。2004年3月総選挙でヌグリ・スンビラン州議会議員に初当選(以後、08年、13年選挙で連続当選)し、同月中に同州首席相(MB)に選任(一8年5月)。18年5月同州議会選挙で無投票当選(のちに選挙法廷が無効と裁定)。19年4月同州議会選挙補欠選挙で当選(通算4期目：一現職)。22年11月総選挙で下院議員に初当選(一現職、同12月3日(アンワル内閣)国防相(一現職)【家族】ラジャ・サルビア(Raja Salbiah Tengku Najumuddin)夫人との間に子供5人【詳細データ】⇒AMR(23/02/15)。

《シンガポール》

■国防相 Minister for Defence

ン・エンヘン(黄永宏) Dr Ng Eng Hen



11月16日に開かれた10th ADMM-Plusでは、東南アジア地域の平和と安定を維持するために、「法の支配」による秩序遵守の重要性および信頼醸成と紛争予防に向けたADMM-Plusでの対話国との協議の意義を強調した。

*2005年から第二国防相を務め、第3次リー・シェンロン政権発足時の11年5月に現職(国防相)に就任。06年5月創設されたADMMの各国代表では「最古参」となる。閣僚歴20年に及ぶリー政権の重鎮的存在。

*シンガポール陸軍医務将校(大尉)を務めた経歴を持つガン専門医。01年に国会議員に初当選し、以後、連続当選を果たし現在は5期目(ピシャントア・パヨ集団選挙区 [GRC])。

▼データ：【年齢】64歳(1959年12月10日生まれ)【生地】(英連邦自治州)シンガポール【政党】人民行動党(PAP)【人種】華人【宗教】キリスト教【学歴】シンガポール国立大学(NUS)医学部卒(MBBS)、同大学医学修士(外科)【経歴】(英)エディンバラ王立外科学会研究員、シンガポール陸軍医務将校(大尉)を経て、1990年シンガポール総合病院(SGH)顧問外科医。97年開業医(胸部外科専門)。2001年国会議員に初当選(以後、06年、11年、15年、20年選挙で連続当選)。02年(ゴ・チョクトン政権)国務相(教育/人材開発)、03年人材開発相代行兼上級国務相(教育)。04年(第1次リー・シェンロン政権)人材開発相兼第二教育相。05年人材開発相兼第二国防相。08年教育相兼第二国防相。11年5月(第3次リー・シェンロン政権)国防相に就任。15年10月(第4次リー・シェンロン政権)国防相に再任。20年7月10日総選挙で下院議員に5選、同27日(第5次リー・シェンロン政権)国防相に再任(一現職)【家族】シンガポール最大のヘルスケアグループ「SingHealth」のCEOを務めるアイビー(Ivy Swee Lian)夫人(小児科医・遺伝学者)との間に子供4人。

《ブルネイ》

■首相府相兼第二国防相

Minister at the Prime Minister's Office & Minister of Defence II

ハルビ・モハマド・ユソフ(退役少将) Maj.Gen.(Ret.) Halbi Mohd Yusof



ブルネイ政府では国防相ポストはボルキア国王(首相兼国防相兼財務経済相兼外相)が兼任しているため、同(ハルビ)氏がADMMなどの国際会議では同国代表の責務を果たす。元ブルネイ王国軍(RBAF)司令官(退役陸軍少将)。

▼データ：【年齢】67歳(1956年6月22日生まれ)【学歴】英国サンドハースト王立陸軍士官学校卒、英国王立国防大学(RCDS)修士(国際政治学)【経歴】陸軍将校：1977年ブルネイ王国軍(RBAF)少尉に任官。RBAF司令官補佐官、ブルネイ陸軍(RBLF)第2大隊長、RBAF司令部作戦・企画本部1級参謀(作戦担当)、国防大臣官房戦略企画部長代行などを歴任。2001年2月陸軍(RBLF)司令官を経て、03年3月ブルネイ王国軍(RBAF)司令官に就任。09年12月RBAFを定年退役。10年5月副内相として入閣。15年10月文化・青年・スポーツ相。18年1月第二国防相。22年6月首相府相。23年2月27日首相府相兼第二国防相(一現職)。

《フィリピン》

■国防相 Secretary of National Defense

ジルベルト・テオドロ Gilbeto Eduardo Gerardo Cojuangco Teodoro Jr.



マルコス大統領が今年6月5日付で発令した人事で、現職(第25代国防相)に任命された。アロヨ政権下の2007-09年にも国防相を務めたことがあり、再登板になる。

* (米)ハーバード大学で法学修士号を取得した弁護士・実業家で、下院議員を3期(9年間)務めており政治家としての経験も豊富。フィリピン空軍(PAF)指揮幕僚学校とフィリピン国軍(AFP)指揮幕僚大学の指揮幕僚課程を修了し、予備役空軍大佐(PAF指揮幕僚学校客員教官)に任官。* 故コラソン・アキノ元大統領の甥に当たり、故ベニグノ・アキノ(3世)元大統領とは従兄弟の関係。

▼データ：【年齢】59歳(1964年6月14日生まれ)【生地】マニラ【政党】人民改革党(PPP)【宗教】カトリック【学歴】デラサール大学卒(商学・金融機関：首席、フィリピン大学(UP)法学士(LL.B.)取得。89年司法試験を全国トップで合格。97年(米)ハーバード大学法学修士(LL.M.)。ニューヨーク州司法試験合格(同州弁護士会会員)。09年(ネグロス・オクシデンタル州)ウェスト・ネグロス大学博士(法学)【軍歴】予備役空軍大佐【経歴】政治家・弁護士・実業家：1985年タルラク州議会議員(一86年)。89年「EPメンドーサ(Mendoza)法律事務所」弁護士(一96年)。95年「スリコン(Suricon)リソース」社会長・最高経営責任者(CEO)(一96年)。98年下院議員(NPC：タルラク1区)に初当選(以後、連続3期当選：一2007年6月)。2007年8月(アロヨ政権)国防相(一09年11月)。10年5月大統領選挙に立候補するが落選。15年8月から「サジタリウス(Sagittarius)鉱業」社取締役会長ほか数社の役員を兼任。23年6月5日(マルコス内閣)国防相(一現職)【家族】モニカ(Monica Prieto)夫人(元下院議員・現UNICEF特別大使)との間に1男。【詳細データ】⇒AMR(23/07/15)。

《ベトナム》

■国防相 Minister of Defence

ファン・バン・ザン大将 Gen. Phan Van Giang



2021年1月下旬に開かれたベトナム共産党(CPV)の第13回大会で初めて党政治局入りするとともに、同4月の第14期第11回国会での選任により、第1国防次官から現職(国防相)に昇格。

▼データ：【年齢】63歳(1960年10月14日生まれ)【生地】紅河デルタ地方・ナムディン省ナムチュック県【人種】キン族【学歴】ベトナム人民軍(PAVN)機甲将校学校卒【経歴】ベトナム人民軍(PAVN)将校：2000年第1軍団副団長兼第312師団参謀長。03年同師団長。08年第1軍団副団長兼参謀長(少将)。10年同団長。11年PAVN参謀次長(中将)。14年第1軍管区司令官。2016年4月12日第一国防次官、同5月17日からPAVN参謀長(上将)を兼任。21年4月8日国防相(大将：一現在)。

《カンボジア》

■副首相兼国防相 Deputy Prime Minister & Minister of National Defence

ティア・セイハ大将 Gen. Tea Seha



今年8月のファン・マネット新政権発足時に現職(副首相兼国防相)に抜擢。ティア・バニユ(Tea Banh)前副首相兼国防相の息子。カンボジア王国軍大将。前シアマリアプ州知事。

▼データ：【年齢】43歳(1980年8月31日生まれ)【生地】ブノンペン【政党】カンボジア人民党【学歴】(仏)パリリセー・パッシー・サントノール卒(経営学)、(仏)サン・シール陸軍士官学校卒【経歴】政治家：2018年12月シアマリアプ州知事。23年8月22日(ファン・マネット内閣)副首相兼国防相(一現職)。

《ミャンマー》

* ミャンマー軍事政権のティン・アウン・サン国防相(海軍大将：Adm Tin Aung San)は10th ADMM・関連会合に招待されていない。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)